福島潟自然情報

香り植物を探そう－福島潟生きもの探検－

潟先案内人の観察日記

このコーナーは、ビュー福島潟とNPO法人「ねっとわーく福島潟」で担当しています。

見られる場所：潟来亭、福島潟と周辺・自然学習園

福島潟の緑がゆれ匂う6月、昨年の広報とよさか6月号には「つる植物を探そう」と書きました。今年は、香り植物を探してみましょう。

ショウブ（サトイモ科）…昔、菖蒲湯（しょうぶゆ）に使われていました。根茎は太く、白くてたびたび淡いピンク色をしてよい香りがします。福島潟の中央部には、なぜかオオヒシクイやハクチョウに食べられずたくさん残っています。自然学習園にも淡水魚池の水際に生えています。

ハッカ（シソ科）…全草に強い香りがし、薬用として栽培されることもあります。花期は8～10月で淡紫色をおびています。

学習園にも何カ所かに群生しています。今の時期は茎葉だけですが探してみてください。

キュウリグサ（ムラサキ科）…栽培種のワスレナグサに似た植物。畑地や道ばたに普通に見られます。花は空色で、径2ミリメートルと小さくワスレナグサの4分の1くらいです。花期は、4～5月ですが今も咲いています。花序（かじょ）の先がくるりと巻き、この部分や葉をもむとキュウリの香りがすることからこの名がついています。

シロツメクサ（マメ科）…ご存知クローバーです。あの群生地に寝そべっていると甘くなつかしい香りが漂ってきます。

私たちねっとわーく福島潟が作った福島潟・生き物カルタ「植物編」（編集責任者　伊藤裕美子）には次のような香り植物の読み札が採用されています。

水色の花もむ匂いで、キュウリグサ
子供の日、香りなつかし、ショウブの湯
葉も花も、すかっと香る、ハッカかな

カルタの読み札は、できるだけ五感（見る、聞く、嗅ぐ、味わう、触る）をフルに使って、わかるような言葉を選んでいます。ビュー福島潟のショップに置いてあります。一度ご覧ください。

（ねっとわーく福島潟　潟先案内人　松木）

ショウブ

博物館通信⑮　「県北の漁港」（日本画）

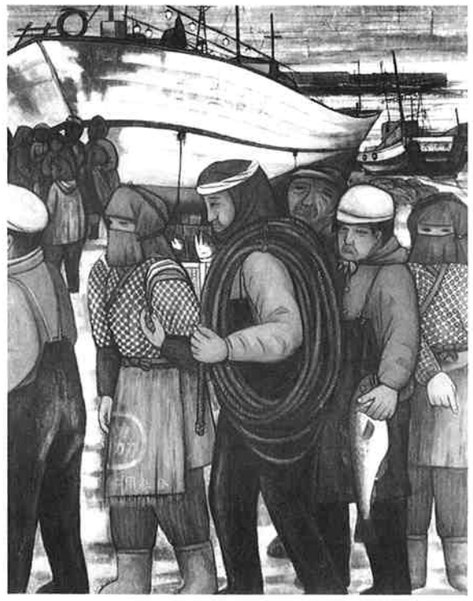
高野 常与志 作（1924～1993）

高野氏は内島見の農家の長男として生まれました。農業のかたわら、日本美術院同人の小島丹漾（たんよう）の人柄と作品に感動を受け、絵筆を手にしたと伝えられています。作風は、日本画の一般的なテーマである、華やかな花鳥画・美人画の世界とは一線を画しています。蒲原の厳しい風土と、ありのままの自然を受け入れて生きる人々を力強く描いています。こうした生活感あふれる独特の作風によって「農民画家」と賞賛され、昭和54年には日本美術院特待に推挙されるとともに、県内美術界の重責を果たし、その発展に大きく貢献してきました。

写真の作品は、博物館に収蔵されています。ロープを担いだ人を中央に配し、黙々と漁港で働く人々を描いたもので、重厚で確かな構築力を感じ取ることができます。高野氏の作品は、ほかに中央公民館、体育館、木崎地区コミュニティセンター、木崎小学校、木崎中学校などで見ることができますのでご鑑賞ください。

なお、昭和20年秋に他県に先駆けて開催された文化祭新潟美術展（現在の県展）の日本画部門で活躍していた豊栄市関係者には、高野氏のほかに、星野楚人（ほしのそじん）氏（故人）、石津川英男氏がいました。戦後間もない混乱の中で、新潟県の美術界をけん引した各氏の作品を一堂に会した展覧会をいずれ開催できればと願っています。

（博物館　宮崎）



「県北の漁港」S54年制作
院展無鑑査出品作　150号

市民の声

学校探訪①「早通南小学校」

体験からはじまる
～5年生農業体験を通して～

早通南小学校　教諭　本多　敏浩

「田植えをして、一番印象に残ったのは、土の感触です。最初、脇に立って田んぼの中を見た時、正直言って『こんな所には入りたくないな』と思いました。それに私が植える列にはカエルも見えました。田植えが始まって、みんなが入り出したのに、私はなかなか入れませんでした。私が立っていると、みんなはどんどん先へ進んで行くので、私も片足だけ入ってみました。ぬるっとしたけれど思ったより気持ちよかったです。だんだん土にも慣れて、苗を植えるペースも速くなりました。最初はあんなに嫌だったのに、最後はとても楽しくなりました」。

これは、田植えを終えた直後の5年生の感想です。たぶん自分にとっては最初で最後の田植えになるだろうが、とてもいい思い出になった。これから苗の世話もできるだけ自分でやりたいと結んでいます。

早通南小学校では、JA豊栄市の本間さん、田んぼの所有者である坂井さん、そして管理者の和田さんのお力添えで、平成15年度から社会科学習の発展として、総合的な学習で米作りの農業体験に取り組んでいます。

毎日食べているお米なのに、子どもたちは誰がどのように作っているのかあまり関心がありませんでした。社会科の学習で、米作りの仕事について学習し、知識として身に付けてもそれは人ごとに過ぎません。しかし、田植えを体験してからは、自分たちで植えた苗を育てるにはどうすればよいのか、秋にコガネモチを収穫し、餅つきをして食べたい！という明確なめあてをもって苗の生育を見守っています。

教科書や資料集を調べても土の感触はわかりません。「泥の中にはカエルがいて気持ち悪い」、「でも冷たくて気持ちいい」など、体験から得た自分の感覚を、子どもの時にたくさん引き出し、覚えさせてあげることが必要だと思います。それが原体験であり、確かな知識が育つ土壌となるのではないでしょうか。

学校探訪②「岡方中学校」

地域とともに進める学校づくり
～岡方中学校区ウォームハート推進会議の取り組み～

岡方中学校長　曽我　達朗

人間性豊かな「岡方の子」を学校、家庭、地域が協力し、連携を図りながら事業を進めていくことになりました。平成11年の4月に小中学校3校とそれぞれのPTA、後援会、育成会、地区コミュニティ、老人クラブ連合会などでウォームハート推進会議を組織し発足しました。

今年度で6年目を迎えますが、推進会議を地域の17団体が後援してくださり、一層充実してきております。

小中学校3校が共同で行う3コース（交流、育成、広報）の主な事業を一部ですが紹介します。

〈交流コース〉

(1)岡中オープンスクール(2)地域美化活動(3)3校教職員交流会(4)3校PTA役員交流会(5)学校支援ボランティア会議・サポート委員会などです。

地域美化活動は、夏休み中の1日、小学校高学年と中学1年生がそれぞれの地域の老人会と一体となって、公民館などの環境整備や美化活動に一緒に行動し汗を流します。活動の後は、「総合学習」の一環として、地域にまつわる歴史や主な出来事、民話など昔の話をお聞きします。

地域の子どもは地域が育てるというように各地区の老人会の皆さんからもご指導をいただいております。

〈育成コース〉

(1)阿賀野川大クリーン作戦(2)地域あいさつ運動(3)育成巡視活動(4)生徒指導（いじめ）対策委員会などです。

阿賀野川大クリーン作戦のボランティア活動を毎年7月の「海の日」に実施しております。

年を追うごとに地域の意識も高まり、約600人程の人々が参加してくださいます。地域の人の活動は子どもに対してとても良い見本となっています。

〈広報コース〉

ウォームハート通信を年間3回発行して、校区内の全戸に配布しています。

毎年充実してきている阿賀野川大クリーン作戦